



弘前城天守

曳戻し

2026

石垣修理のため
移動していた天守が

元の場所に

カエル。



▲詳細はこちら



石垣修理のために移動していた天守が元の場所に戻ります。

天守の移動 令和8年7月～11月中旬(予定)

曳戻しイベント 令和8年8月21日(金)～23日(日)

■問い合わせ先

弘前市都市整備部公園緑地課 〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1

☎ 0172-33-8739 ✉ kouen@city.hirosaki.lg.jp

※内容は変更になる場合があります。



弘前城とは

弘前城は、弘前藩初代藩主・津軽為信^{ためぶ}により築城が計画され、2代藩主信枚^{のぶひら}の時代、1611（慶長16）年に完成しました。お城は本丸・北の郭・二の丸・三の丸・四の丸・西の郭の6つの郭で構成された平山城で、その規模は東西約500m、南北約1,000m、総面積約50ヘクタールに及びます。濠は三方・三重に巡らされ、西側は蓮池と岩木川の流路であった西濠で守られています。

築城当初の天守は五層（5階建）であったといわれ、本丸の南西隅に位置していましたが、1627（寛永4）年の落雷により焼失したと伝わっています。

本丸の南東隅にある現在の天守は、1810（文化7）年に9代藩主寧親^{やすちか}が檜造營の名目で再建したものです。日本で現存している12天守のうちのひとつに数えられ、3棟の二の丸隅櫓・5棟の城門とともに重要文化財に指定されています。



大正の石垣修理

1894（明治27）年と1896（明治29）年、天守台北側の石垣が崩落します。明治29年の崩落後は、そのまま放置すると天守まで倒壊する危険性があったため、翌年に弘前市出身の大工棟梁・堀江佐吉が天守を本丸内部に曳家しています。石垣が修復されたのは、曳家から19年後の1915（大正4）年のことでした。



大正4年の石垣修理



平成から令和の石垣修理

1983（昭和58）年5月の日本海中部地震をきっかけに、本丸東面石垣の定点観測を開始します。その後、石垣の膨らみが明確となり、このまま進行すると石垣が崩落する危険性があることから、2011（平成23）年に解体修理が決定しました。



石垣の膨らみ



石垣修理スケジュール

- 平成26年度 内濠の埋め立て工事
- 平成27年度 天守曳家工事天守を約70m本丸中央側に曳家
- 平成28年度 石垣解体工事着手
- 平成29年度 石垣1,233石を解体・本丸の発掘調査
- 平成30年度 石垣解体工事完了（延べ2,172石）
本丸の発掘調査
- 令和元年度 内濠の発掘調査（令和2年度まで）
- 令和3年度 石垣積直し工事（北側工区）開始
石垣修理範囲北端の13石を追加解体
- 令和5年度 石垣積直し工事（南側工区）開始
天守基礎耐震補強工事開始
- 令和6年度 石垣積直し工事完了
- 令和8年度 天守基礎耐震補強工事完了（予定）
弘前城天守 曳戻し
- 令和9年度 本丸外構整備（予定）
- 令和10年度 天守耐震・保存修理工事着手（予定）

